

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和5年6月6日	
茨城県知事 殿	
提出者	
住 所 茨城県筑西市みどり町2-1-1	
氏 名 日本ハムファクトリー株式会社	
茨城工場	
工場長 稲 葉 潤	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0296-24-1111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日本ハムファクトリー株式会社 茨城工場
事業場の所在地	茨城県筑西市みどり町2-1-1
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食料品製造業
②事業の規模	製造数量 39,428 t/年 (令和4年度実績)
③従業員数	967名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙排出物処分フロー参照

第二部

軍需産業の公営化に係る管理体制に関する事項



送著者兼録の抄出の非利に懸念の事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	動残	混合	ガラス	木屑	水銀製品
	排 出 量	45,456.0	1,462.46	1,003.51	2.64	9.01	0.50	0.00
	<p>（汚泥） 排水処理沈殿槽増設により安定稼働が出来たため減少。</p> <p>（廃プラスチック） 製造品種の規格変更等が多くデッド資材在庫の増加により増加したが清算時に発生するフィルムロス削減により微増となった。</p> <p>（動物性残渣） 製造品種の規格変更等により製造工程内での不良製品が増加。 作業人員不足により再利用率の低下。以上により動物性残渣が増加</p>							
② 計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	動残	混合	ガラス	木屑	水銀製品
	排 出 量	42,626.10	1,067.39	1,028.34	2.00	1.0	1.0	1.0
	<p>（今後実施する予定の取組） 品種統廃合により製造工程の切替回数削減してフィルムロス削減。 製品換品基準見直しによる動物性残渣削減。 不良製品の再利用率基準の見直しによる動物性残渣削減 廃プラスチックの分別状態を点検しリサイクル推進。 廃プラスチック付きの金類（混合）は出来るだけ分別して、金属売却処理に廻す。 工場内でのリユース活動推進による廃棄物の削減</p>							

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック：リサイクル用 (ポリタ、BPS) と焼却用の分別 動物性廃液：製品及び原料肉と包装資材の分別 蛍光灯：紙管と蛍光管の分別、金属屑：スチール、鉄屑、混合物 付ヤビン・瓦礫類の分別、木製パレット、木製梱包材の分別 廃油の分別 (真空ポンプ油、自家発電エンジン油)
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 昨年間様、マテリアルリサイクルとして有価物となるもの (PPバンド、 樹脂パレット、樹脂製カゴ、ダンボール、模造紙) の分別強化する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度 (令和4年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	該当なし	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	計画なし	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度 (令和4年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	
	前年度値より増加した 産業廃棄物の量	16,880.41 t	
	(これまでに実施した取組) 脱水機による汚泥脱水処理、溜集溜調整。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	
	前年度値より減少する 産業廃棄物の量	45,747.66 t	
	(今後実施する予定の取組) 前年同様の取り組み		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項								
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	該当なし						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t			t			
	(これまでに実施した取組)							
② 計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	計画なし						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t			t			
	(今後実施する予定の取組)							
産業廃棄物の処理の委託に関する事項								
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	動残	混合	ガラス	木屑	廃蓄電池
	全処理委託量	1,809.59	1,052.65	1,033.51	2.04	0.00	0.00	0
	優良認定処理業者への処理委託量		412.93	12.15				
	再生利用業者への処理委託量	1,809.59	254.54	1,021.36	2.04	0.00	0.00	0
	認定熱回収業者への処理委託量							
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		798.11	12.15				
	(これまでに実施した取組) 汚泥は肥料化する中間処理業者に委託。 廃プラは出来るだけRPF燃料化に委託し、不可能なものを焼却委託。 焼却炉ではサーマルリサイクルを行なっている業者に積極的に委託。 動物性残渣は、肥料にリサイクルした。 真空ポンプや自家発電エンジンオイルの廃油は有価物（再資源化）に。 金属屑は鉄・ステンレス・混合物に分類して再資源化。 ガラス屑は、ビン類に分別して再資源化。 木屑は、木製パレットや木枠梱包材を分別し、木質チップに再資源化。							

②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃材	動残	混合	その他	木屑	その他資源物
	全処理委託量	1,777.44	1,817.89	1,028.34	2.03	1.8	1.8	1.0
	優良認定処理業者への 処理委託量		532.85	12.04				
	再生利用業者への 処理委託量	1,777.44	263.22	1,449.98	2.03	1.8	1.8	1.0
	認定熱回収業者への 処理委託量							
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		794.12	12.89				
<p>（今後実施する予定の取組）</p> <p>硬質プラスチック（パレットやコンテナ）は分別強化し、マテリアリサイクル推進する。</p> <p>軟質プラスチック（包材、シート等）は、燃料燃焼原料へ処理委託する。</p> <p>動物性残渣は、ロットミス防止、落ち肉・落ち製品の削減に取り組む。また、製品規格の取違を積極的に行い発生量の削減に取り組む。</p> <p>製品回収による廃棄発生量ゼロに取り組む。</p> <p>処理委託は焼却を減らし肥料化を積極的に行う。</p> <p>廃油は継続して全量有価物販売とする。</p> <p>汚泥は排水処理施設の効率的運転管理と、一部を炭化装置で有機物売却し、処理委託量を削減に取り組む。</p>								
廃事務処理欄								

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。